

## 【2月定例会】令和3年度佐賀県当初予算案などを可決しました 【4月臨時会】各委員会の構成などが決まりました

各委員会の構成などは、8ページに掲載しています。



### 2月定例会概要

令和3年2月定例会県議会は、2月18日に開会し、30日間の会期を経て、3月19日に閉会しました。

本定例会では、令和3年度佐賀県一般会計予算案など81件の議案等が審議され、予算議案35件、条例議案23件、条例外議案14件、意見書案2件が可決、予算専決議案1件が承認及び人事議案の3件が同意されました。

### 4月臨時会概要

令和3年4月臨時県議会は、4月20日に開会し、3日間の会期を経て、4月22日に閉会しました。

本臨時県議会では、議長及び副議長の選挙が行われたほか、各常任委員会、各特別委員会及び議会運営委員会の委員の選任並びに正副委員長互選が行われました。

このほか、「令和3年度佐賀県一般会計補正予算（第1号）の専決処分について」の議案が承認、「教育長の任命について」及び「監査委員の選任について」の議案が同意されました。

### 令和3年度当初予算など成立

令和3年度当初予算関係では、令和3年度佐賀県一般会計予算案（総額約5,564億6,300万円、対前年比14.6%増）のほか、災害救助基金特別会計予算案、工業用水道事業会計予算案など17件の予算案が原案どおり可決されました。

令和2年度補正予算関係では、令和2年度佐賀県一般会計補正予算案（第10号）のほか、災害救助基金特別会計予算案、工業用水道事業会計予算案など18件の補正予算案が原案どおり可決されました。なお、令和2年度佐賀県一般会計補正予算案は、新型コロナウイルス感染症に対応するため緊急に措置を要するものについて、開会日翌日に繰上採決を行った議案分を含め、総額約6,240億2,367万円（対前年比31.5%増）となりました。

### 県民のみなさまへ

県民の皆さまには、日頃から県議会活動に對しまして、ご支援・ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。昨年からの全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、我が国でもワクチンの接種が始まりましたが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。このような中、新型コロナウイルス感染症拡大防止に尽力されている医療従事者の方々には心より感謝申し上げますとともに、コロナ禍で影響を受けられていらっしゃる皆様から御舞い申し上げます。県議会としては、新型コロナウイルス感染症の感染防止はもとより、新型コロナウイルス感染症により重大な影響を受けた産業への支援について、特に重要な問題だと考えており、執行部と共に一丸となって取り組んでいるところです。また、本県には九州佐賀国際空港への陸上自衛隊オスプレイ配備、九州新幹線西九州ルート整備、有明海の再生など国政に関わる重要な課題があり、この大切な時期に議長・副議長に就任した責任の重さを感じると共に、全身全霊を以って課題解決に向け対処していきます。今後とも、県民の皆さまの期待と信頼に応えながら、県議会としての使命が果たされるよう全力で努めてまいりますので、なお一層のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

議長 藤木卓一郎  
副議長 原田寿雄

主な内容	2月定例会、4月臨時会の概要など	1
	本会議質問 主な代表質問と15人の議員が行った主な一般質問と答弁要旨	2～5
	委員会の概要 各常任・特別委員会の主な審議事項等	6～7
	委員会構成、可決された条例、意見書など	8

「インターネット議会録画」や「会議日程」、「会議録」などがご覧いただけます。

佐賀県議会

検索



## 本会議質問

本会議では、2月26日に代表質問、3月2日から4日にかけて一般質問が行われ、次のような質問・答弁の内容を中心に、県政全般にわたる幅広い議論が展開されました。

### 質問議員

※質問順

### 代表質問

二月二十六日（金曜日）

- 藤木卓一郎（自由民主党）
- 藤崎輝樹（県民ネットワーク）

### 一般質問

三月二日（火曜日）

- 富田幸樹（自由民主党）
- 徳光清孝（県民ネットワーク）
- 井上祐輔（日本共産党）
- 木村雄一（公明党）
- 一ノ瀬裕子（佐賀讃花の会）

三月三日（水曜日）

- 野田勝人（県民ネットワーク）
- 西久保弘克（自由民主党）
- 定松一生（自由民主党）
- 土井敏行（自由民主党）
- 池田正恭（自由民主党）

三月四日（木曜日）

- 古川裕紀（自由民主党）
- 八谷克幸（自由民主党）
- 原田寿雄（自由民主党）
- 弘川貴紀（自由民主党）
- 稲富正敏（自民党・郵の会）



佐賀県議会  
録画放送ページ

## 代表質問

### 政策・総務



#### 知事の政治姿勢

令和3年度もコロナの状況を見据えながらの県政運営にならざるを得ないと思われる。厳しい状況が続いているからこそ、人々に希望を与える県政運営への期待は大きいと考える。知事は、どのような考えで当初予算を編成したのか。



今回は、2月補正と当初予算を合わせて、全体を一つとしてコロナ対策を第一に考えた予算であり、その上で、今、打つべき施策、未来を見据えた施策を盛り込んだ。

コロナ対策では、医療・介護・保育の現場などへの佐賀型メール支援金や、佐賀型中小事業者応援金、プロジェクトMによる医療現場を支える取組など。今、打つべき施策では、佐賀の医療を担う医師の育成・定着を支援する「SAGA Doctor'sプロジェクト」や、相談アプリ「ママリ」を活用した妊娠期から就学前までの一貫したサポートなど。未来を見据えた施策では、高校の産業教育設備を一新

する取組や、企業のDX化の支援などである。

さらに、佐賀の本質的な価値を未来につなぐ施策として、長崎本線沿線を楽しむ仕掛けづくりや、唐津プロジェクト、「OPEN-AIR佐賀」、移住促進施策、「プロジェクト65」などを具現化している。

コロナ禍で社会が大きく変化している今、企画力、構想力、想像力、そして、団結力をもって未来のための布石を打ち、県政を進めていきたい。

## 健康福祉



### 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルスのワクチン接種について、県民からは「ワクチンの効能や副反応などの情報が少ない中で接種の判断するのは不安に感じる。」などの声があり、市町など関係者からも「集団接種の会場を確保するにしても、いつから始まるのかさえ明確でないため確保が困難」などの課題が挙げられている。

国はワクチン接種の目的を、新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、重症化をできる限り減らすためとし、

実施に向け積極的に取り組む一方で、ワクチンを接種するかどうかは最終的には個人の判断としている。

ワクチン接種に関する正しい情報を県民に伝え、国が求めるワクチンの接種率を上げるため、県はどのように取り組んでいくのか。



ワクチン接種について、県内では令和3年2月22日から医療従事者等への先行接種が始まっており、3月上旬からは一般の医療従事者等への優先接種を、その後、65歳以上の高齢者への接種を予定している。

県としては接種したい県民の皆様が円滑に接種できる環境を整えることが大切と考えており、市町医師会などと連携、調整しながら、一般の医療従事者などへの優先接種の体制整備を進めるとともに、過去に例を見ない規模での接種に向けた準備を進めている市町を、医師会と連携、協議しながら支援していく。

ワクチンを接種するかどうかは最終的には県民自らの意思で判断いただくものである。県民の皆様が接種するかどうか、安心して正しく判断できるように、ホームページなどの広報媒体を活用し、正確な情報をできるだけ早くお伝えしていく。



一般質問

政策・総務



大隈重信100年アカデミア



県では、佐賀が輩出した偉人・大隈重信侯の100回忌を契機

に、「大隈重信100年アカデミア」を展開することとしている。県が、2度の総理大臣や早稲田大学創設だけではない大隈侯の数々の功績を広く発信することを目指しているように、この機会にまだ知られていない功績やエピソードを多くの方々に認識してほしいと考える。

大隈侯をはじめ、佐賀が誇る七賢人などを、歴史的な区切りを捉えて振り返り、未来につないでいくことは大変重要だと思うが、知事はどのような考えで、この取組を進めようと考えたのか。



知事就任当初、佐賀には歴史、文化など素晴らしい地域資源があるにもかかわらず、佐賀の誇りというものに光が当たっていなかったり、現代を生きる我々に必ずしも十分に伝わっていないような印象を受けた。そして、佐賀県が躍進するためには、地

域への誇り、シビルプライドというものは、なくてはならない極めて大切な要素だと確信した。

大隈侯は、構想力、想像力を持って、日本の近代化に向けた数多くの事業を牽引された。その多岐にわたる比類なき功績を見つめ直す機会として「大隈重信100年アカデミア」を開校し、佐賀への誇り、愛着をさらに深める大変重要な1年にしたいと考えている。

現在の厳しいコロナ禍の状況と似た、時代の転換期に活躍した大隈侯の思いや功績に触れることは、私たちに前を向いて進むための力を与えてくれると考える。

佐賀には文化、歴史の素材があふれている。佐賀の誇りを取り戻し、積み重ね、未来につなげていきたい。



▲日本初の鉄道は海の上を通った。話題の「高輪築堤」がわかる「大隈重信100年アカデミア」特別動画(音声流れます)

唐津プロジェクト



知事は、2月定例県議会の提案事項説明の中で、「唐津プロジェクト」を進めることを説明された。

唐津・玄海地域は人口減少に歯止めがかからず、若者の県外就職が多く、第一次産業を取り巻く環境も厳しく

なっていることから、この地域が本来持っている魅力を掘り起こす唐津プロジェクトには、大いに期待しているが、知事はどのような思いで取り組んでいるのか。



唐津プロジェクトでは、「佐賀牛<sup>®</sup>」の主要産地である唐津地域において全国でも最大規模となるフリーディングステーション「佐賀牛いろはファーム」を整備するほか、「はじまりの名護屋城」プロジェクト、玄海漁業のスマート化実証など、様々な事業を組み立ててやっていきたいと考えている。

唐津は豊穡の海・玄海と脊振山系の美しい山々に囲まれ、エリア内の地域それぞれに自然、歴史、文化が育んだ、個性豊かで、魅力的な地域資源にあふれている。

一方、平成22年から令和2年までの人口比は、佐賀市は2・1%の減、鳥栖市は8・0%の増に対し、唐津市と玄海町を合わせたエリアは8・7%の減という突出した減少率となっており、こうした現状に向き合ったうえで、唐津が持つ本来の魅力をどう活かすかが課題と考える。

県はこれまでも、波戸岬キャンプ場の再整備、サガプライズ！による人気アニメとのコラボレーション企画など、点的な支援をやってきているが、

地方創生は、「誰かがやってくれるだろう」という意識では成功しない。地域に住む方々が自分たちの地域に誇りを持ち、自分たちでチャレンジすることが何より重要である。呼子のまちなみ保存協議会の取組や、厳木の芸術環境の森など、地域の方々が自分たちで活動する過程を応援し、すばらしい唐津が本来の魅力をしっかりと打ち出せるように、全力で頑張っていきたいと考えている。

【フリーディングステーション】

繁殖雌牛の種付けから分娩までの各過程を農家に代わって実施することにより、受胎率の向上や農家の労働力軽減を図るための繁殖支援施設のこと。



▲「はじまりの名護屋城」プロジェクトの一環で開催されたサイクリングイベントの様子

# 健康福祉



## 男女共同参画の推進



令和2年12月25日、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画に係る施策の総合的かつ計画的推進を図るため、「第5次男女共同参画基本計画」が閣議決定された。

この法律は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけ、社会のあらゆる

分野で男女共同参画社会の形成の促進に関する施策などの推進を図ることとしているが、各都道府県段階での取組にさらなる努力も求められている。

県においても、来年度から5年間にわたる、第5次佐賀県男女共同参画基本計画を策定中であるが、これからの男女共同参画を推進していくため、今後どのように取り組んでいくのか。



男女共同参画社会づくりを進めるため、県では平成13年に佐賀県男女共同参画基本計画を策定し、5年ごとに見直しながら、これまで施策を展開してきた。令和3年度から7年

## 第5次佐賀県男女共同参画基本計画の基本方向・重点目標

### (基本方向1) 男女共同参画推進の基盤づくり

#### 【重点目標】

- (1) 男女共同参画について男女双方の意識の形成
- (2) 幼少期からの男女共同参画について男女双方の意識の形成

### 目指す社会

#### 社会的視点

### (基本方向2)

安全・安心に暮らすことができる社会づくり

#### 【重点目標】

- (3) 男女間のあらゆる暴力の根絶
- (4) 生涯を通じた男女の健康支援
- (5) 生活に困難を抱えたあらゆる人が安心して暮らせる支援と多様性を尊重する環境の整備
- (6) 防災・復興における男女共同参画の推進

#### 経済的視点

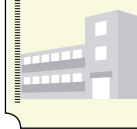
### (基本方向3)

女性が活躍し、男女がともに参画する社会づくり

#### 【重点目標】

- (7) 女性の活躍推進と男性の意識改革・行動変革
- (8) 政策・方針決定過程への女性の参画の推進
- (9) 仕事と家庭・地域生活が両立する環境づくり

## 産業労働



### 未来を見据えた産業振興



令和3年度新規の「Startupの聖地SAGAづくり事業」には、「資金調達支援事業」とし

度が計画期間となる第5次計画では、男女共同参画推進の基盤づくり、安全・安心に暮らすことができる社会づくり、女性が活躍し、男女が共に参画する社会づくりの3つを基本方向とし、重点目標を定めて取り組むこととしている。

今後は、第4次計画で目標に達していない項目に引き続き力を入れるとともに、社会情勢に応じた新たな視点での施策も推進していく。具体的には、性別役割分担意識の解消に向け、男性だけではなく、女性も対象にした男女双方のという視点を持って意識改革、行動変革を進めること、また、防災、復興の分野においては、男女共同参画の視点を盛り込み、女性防災リーダーの育成などを行っていく。

引き続き、様々な分野で男女共同参画の実現を目指し、市や町、関係機関や団体と連携して推進していきたい。

ベンチャーキャピタルからの投資誘致やクラウドファンディングの活用促進が盛り込まれている。ITのプラットフォームビジネスや、画期的な新素材などには、創業後数年は開発費などで大きな赤字を計上するものも多く、銀行融資では思い切った事業展開が難しい。そのため、ベンチャーキャピタルなどからの出資が必要というの理解できるが、本県のような地方の場合、このような資金の出し手は皆無に等しく、結果、県外、さらには海外のファンドや投資家に活路を求めざるを得ない。このハードルの高い課題に、県は今後どのように取り組んでいくのか。



ベンチャーキャピタルなど、いわゆるリスクマネーの出し手は、現状、東京など都市部に偏在しているのが実情である。

このため県では、令和2年度に「ベ



▲エンジェル投資家などから指導を受ける県内の起業家



問

有明海では、平成12年に大規模なノリの色落ち被害が発生し、

有明海の水産業振興

農林水産



【ベンチャーキャピタル】  
個人投資家や機関投資家、事業会社などから集めた資金を、高い成長が見込まれるベンチャー企業に提供する投資会社。

ンチャーキャピタル等投資促進事業」として、県内の起業家に出資の意向がある投資家などと県が協定を締結し、それを有望な起業家へ紹介したり、県内の起業家のビジネスを県外の投資家が投資したいと思える内容にブラッシュアップする短期集中の育成プログラムを開催した。

こうした取組を通じて、昨年、大手の信託銀行と共同で設立されたファンド運営会社など2社と県が協定を締結するなど、幾つかのファンドや投資家とは接点ができてきている。そして、一定の評価や信頼もいただいていることから、こうした蓄積を生かしながら、今後もチャレンジしていきたいと考えている。

諫早湾干拓事業の推進と絡んで社会問題化したことから、海域環境変化の原因を明らかにするため、これまで国、県、大学等による様々な調査研究が行われてきた。

有明海の養殖ノリや二枚貝の安定生産のために、県はこれまでどのような研究に取り組んできたのか。

答

県有明水産振興センターでは、ノリ養殖について、病害や色落ち対策などに関する研究を継続して行っており、毎年発生し被害を及ぼしている、ツボ状菌病の早期発見に関する研究や、色落ち対策として実施する施肥のより効果的な方法に関する研究などに取り組んできた。

二枚貝類については、タイラギやアゲマキでは稚貝の生産と放流による母貝団地造成を進めるとともに、生育に適した環境条件に関する研究に取り組んでおり、とりわけタイラギについては、今年度初めて佐賀生まれ、佐賀育ちの稚貝の放流を実施したところである。さらに、有明海漁協が行っている、ノリ摘み等の省力化を図る「摘採専用船」の実証試験についても、試験区の設定や評価方法等について助言を行っている。

今後とも、研究フィールドの有明海に近く、これまで様々な研究実績がある地元佐賀大学をはじめとする大

学、国、関係県との連携を強化して、試験研究の進捗を図り、成果を出していくことで、ノリ養殖の安定した生産や二枚貝等の水産資源の回復を漁業者の皆様に実感していただけるよう、しっかりと取り組んでいく。

教育



教員の確保

問

学校が抱える課題が複雑化・多様化する中で、きめ細かな教育

を実施するためには、教員を志す者、教員採用試験を受験する者を増やし、優秀な人材を確保していくことが非常に重要である。しかしながら先般、本県の教員採用試験における小学校教員の採用倍率が全国最低の1・4倍とのことであった。県教育委員会には、教員に対する多忙なイメージを払拭するとともに、教職の持つ、やりがいや佐賀県で教職に就くことの魅力をもっと発信していただきたいと考えるが、今後、教員の確保に向けてどのように取り組んでいくのか。

答

採用倍率が低下した要因はある程度はつきりしており、特に小学校においては、かつて大量に採用し

た世代が何年か前から定年退職を迎えていることや、特別支援学級の増加に伴い、必要な教員を確保するために採用数を増やしていることがある。小学校教員の採用数は、10年前は50人前後であったが、令和3年度は200名程度と約4倍になっており、結果として倍率も下がっている状況にある。

教員採用試験については、優秀な人材を確保するため、特定の免許や資格、経験などを有する者に対する採用試験における加点制度の導入など様々な取組を行っており、令和4年度の採用の選考試験では、過去に公立学校の正規職員として3年以上の勤務経験がある方の第一次試験の免除なども予定している。

職場環境の改善の面では、部活動指導員や、スクールソーシャルワーカーといった専門スタッフを学校に配置・派遣することで、授業以外の負担をできるだけ減らすなど、教員の業務支援、負担軽減を図ってきている。

今後とも教員採用試験の見直し、あるいは職場環境の改善などを積極的に行うとともに、それを発信していったり、魅力ある職場であることを、教員を志す方々に訴えていきたい。



委員会

常任委員会及び特別委員会の審議の過程で、付託議案等について、次のような意見や要望、質疑事項が申し述べられました。



佐賀県議会  
録画放送ページ

総務常任委員会

委員会審議

県内視察を含め審議が行われ、付託議案の23件が原案可決、2件が同意されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・佐賀県給与条例の一部を改正する条例

【主な質疑事項等】

- ・さがSociety5.0推進事業の狙いや内容、今後の取組
- ・佐賀県政史の出版の目的や編纂の進捗状況及び県政史の活用方策
- ・魅力ある私学プロモーション強化事業による情報発信支援や期待される効果及び今後の取組
- ・私立学校支援の目的、私立高等学校への支援の内容や実績、県の関わり方及び県民の相談への対応状況
- ・県警察における太宰府事件の位置づけ、提言を出した公安委員会の思い

や提言への県警察の対応及び御遺族の申出に対する今後の対応



▲総務常任委員会による防災航空センター(佐賀市)の視察

文教厚生常任委員会

委員会審議

県内視察を含め審議が行われ、付託議案20件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・公立学校職員特殊勤務手当及びへき地手当支給条例の一部改正

【主な質疑事項等】

- ・コロナ禍で拡充された国の各種支援策の利用状況及び生活困窮者一時生活支援事業の経緯と事業概要並びに生活困窮者に対する今後の県の取組
- ・生活保護の相談件数、申請件数、開始件数、受給世帯数の推移と、申請

者、受給者への対応及び福祉事務所や利用者への周知など、制度を利用しやすくするための今後の取組

- ・新型コロナウイルス感染症の治療に用いられるECMOの整備状況や使用実績及び県内の医療機関における人材の確保状況
- ・県立学校の時間外勤務の実態とその要因及び「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」の改正を踏まえた県教育委員会の対応並びに学校現場の働き方改革に向けた今後の県教育委員会の取組



▲文教厚生常任委員会による北山キャンプ場(佐賀市)の視察

農林水産商工常任委員会

委員会審議

県内視察を含め審議が行われ、付託議案の21件が原案可決されました。



▲農林水産商工常任委員会による佐賀県農業大学校(佐賀市)の視察

【主な付託議案】

- ・一般会計（当初・補正）予算関係分
- ・「佐賀県再生可能エネルギー利用等基本計画」の策定について

【主な質疑事項等】

- ・産業DXの推進に向けた取組と「中小企業DXフラッグシップモデル創出事業」の取組状況、製造業等DXフラッグシップモデル創出の進め方及び未来に向けた産業振興
- ・海洋温度差発電技術の位置づけとその取組、温泉温度差発電の概要とPRの必要性
- ・タイラギ資源の回復における母貝集団の重要性や国や有明海沿岸三県と協調した取組内容、佐賀県産タイラギ人工種苗のこれまでの生産状況や放流状況と放流後の追跡調査等の取組及びタイラギ資源の回復に向けた今後の取組





▲地域交流・県土整備常任委員会によるSAGAサンライズパーク(SAGAアクア)の視察(佐賀市)

・県オリジナルかんきつ新品種「にじゅうまる」の特徴や現在の普及状況と今後の普及策及び今年の販売店舗と販売戦略

### 地域交流・県土整備常任委員会

#### 委員会審議

県内視察を含め審議が行われ、付託議案14件が原案可決されました。

#### 【主な付託議案】

・一般会計(当初・補正)予算関係分  
・請負契約について

#### 【主な質疑事項等】

・岸岳城跡の文化財的価値についての県の認識と、中世から近世の山城の認知度を高めるための情報発信と活用  
・SAGAアクアの工事において、建物の柱の上部が想定よりも外側に開

いていたことの原因とその後の対応及び今後の建物や維持管理等への影響  
・東京2020オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ受入れに関して、ボランティアの活動内容や募集状況及び新型コロナウイルス感染症対策

・吉野ヶ里歴史公園の利用状況を踏まえた招待券配布の取組や、神埼・吉野ヶ里エリアの交流人口増加に向けた開園20周年を契機とした事業の概要

### 新型コロナウイルス感染症対策等特別委員会

#### 委員会審議

3月15日に付議事件について執行部に対する委員会審議が行われました。

#### 【主な質疑事項等】

・新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策や換気の重要性  
・保健福祉事務所や医療現場の状況と負担軽減策  
・医療機関や高齢者施設等への抗原検査キットの配付概要と検査キットを活用するための指針の必要性

・県内の感染後遺症の現状と後遺症のケアへの県の考え方及び大阪府泉大津市の取組みに対する県の所見  
・mRNAワクチンの特徴やワクチンの安全性と接種による有効性及び集団免疫の獲得の必要性

・県のワクチン接種の進め方と実施主体の市町の準備状況や課題に向けた県の対応

・県内の献血の状況とワクチンを接種された方の献血の受入基準及びワクチン接種後の献血者の確保策  
・ワクチン接種に関する不安解消に向けた対応

・雇用調整助成金の現況と今後の取組  
・制度金融による資金繰り支援の実績や新型コロナウイルス対策資金の返済開始の状況及び今後の資金繰り支援への取組  
・県独自の宿泊キャンペーンの状況と今後の観光事業者への支援策

### 佐賀空港・有明海問題対策等特別委員会

3月16日に委員会を開催し、防衛省大臣官房審議官岩元達弘氏他10名を参考人として招致し、質疑を行いました。

#### 【主な質疑事項等】

・防衛省の公害防止協定への認識  
・漁協各支所への説明内容や参加者の反応及び漁業者の理解への所見  
・地権者説明会の重要性に対する所見及び理解を得るための取組  
・地元住民説明会への対応状況  
・周辺対策事業の内容  
・地域振興や漁業振興に関する地元の要望の把握状況  
・地元自治会長等との面会の際に、九

州防衛局長が同席しなかった理由  
・オスプレイ配備に反対する住民や漁業者の声に対する所見

・事故が発生した場合の対応  
・木更津駐屯地でのオスプレイの運用状況及び今後の配備計画  
・用地取得の時期や予算措置の状況  
・佐賀空港の代替地選定の有無  
・将来の基地拡張の予定  
・目達原駐屯地の今後の役割

### 新幹線問題対策等特別委員会

3月17日に付議事件について執行部に対する委員会審議が行われました。

#### 【主な質疑事項等】

・九州新幹線西九州ルート武雄温泉・長崎間の工事の進捗状況と開業時期の見通し及び事業費と佐賀県負担額の累計額と今後の見込  
・武雄温泉・長崎間を運行する新幹線の名称と車両編成及び開業後の運行ダイヤの見込

・佐賀空港を通るルートに言及した知事インタビューでの発言の根拠とその影響及び様々なルートについて鉄道局と協議することに対する県の認識  
・関西直通の実現性がないフリーゲージトレインに拘らず、現実的な整備方式について鉄道局と協議を進めることに対する県の考え方

## 委員会構成

◆議長：藤木 卓一郎、副議長：原田 寿雄

### ◆常任委員会

委員会名(定数)	委員長	副委員長	委員(年齢順)
総務常任委員会 (10人、欠員1)	岡口 重文	西久保 弘克	石倉 秀郷、徳光 清孝、中本 正一、弘川 貴紀、藤木 卓一郎、坂口 祐樹、一ノ瀬 裕子
文教厚生常任委員会 (10人、欠員1)	古賀 陽三	池田 正恭	稲富 正敏、木原 奉文、定松 一生、宮原 真一、藤崎 輝樹、木村 雄一、古川 裕紀
農林水産商工常任委員会 (9人)	川崎 常博	野田 勝人	留守 茂幸、武藤 明美、大場 芳博、中倉 政義、土井 敏行、古賀 和浩、江口 善紀
地域交流・県土整備常任委員会 (9人)	井上 常憲	井上 祐輔	石井 秀夫、八谷 克幸、原田 寿雄、富田 幸樹、中村 圭一、向門 慶人、下田 寛

### ◆議会運営委員会(定数11)

委員長	副委員長	委員(年齢順)
宮原 真一	古賀 陽三	石井 秀夫、武藤 明美、八谷 克幸、石倉 秀郷、木原 奉文、野田 勝人、定松 一生、中本 正一、藤崎 輝樹

### ◆特別委員会

委員会名(定数)	委員長	副委員長	委員(年齢順)
新型コロナウイルス感染症対策等特別委員会 (12人、欠員1)	中倉 政義	下田 寛	八谷 克幸、大場 芳博、石倉 秀郷、井上 常憲、岡口 重文、池田 正恭、古賀 和浩、一ノ瀬 裕子、木村 雄一
佐賀空港・有明海問題対策等特別委員会 (12人、欠員1)	土井 敏行	中村 圭一	留守 茂幸、稲富 正敏、武藤 明美、野田 勝人、弘川 貴紀、川崎 常博、江口 善紀、坂口 祐樹、古賀 陽三
新幹線問題対策等特別委員会 (12人)	木原 奉文	富田 幸樹	石井 秀夫、徳光 清孝、定松 一生、中本 正一、西久保 弘克、宮原 真一、藤崎 輝樹、向門 慶人、古川 裕紀、井上 祐輔

◆監査委員(定数1人) 大場 芳博(令和3年4月22日選任)

◆競馬組合議会議員(定数3人) 石井 秀夫(令和元年5月16日選出)、中倉 政義、宮原 真一(ともに令和3年4月22日選出)

## 2月定例会で条例などが次のとおり可決されました。

### 《条例(23件可決)》

- 佐賀県ふるさと寄附金基金条例の一部を改正する条例  
(内容：企業版ふるさと納税の寄附金をより幅広く活用できることとなったため、複数年度にわたる事業計画など柔軟な対応が可能となるよう、基金に積み立てることができることとする。)
- 佐賀県安心こども基金条例の一部を改正する条例  
(内容：本基金で実施している幼児教育・保育無償化円滑化事業の実施期間が、令和5年度末までであることから、基金の存続期間を延長する。  
[現行] 令和3年6月30日→[改正後] 令和6年6月30日)

- 佐賀県新型コロナウイルス感染症対応中小企業金融支援基金条例  
(内容：新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた県内中小企業者に対し、金融上の支援を行うため、基金を新設する。  
①信用保証料補助 ②利子補給事業(原資は全額国庫))

など

### 《意見書(2件可決)》

- 新型コロナウイルスワクチンに関する意見書
- 尖閣諸島周辺海域における安全確保を求める意見書

本県議会前議長 桃崎 峰人 様(71歳)は、令和3年3月5日(金)にご逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。

県議会ホームページより、会議録・インターネット中継・録画放送などがご覧いただけます

佐賀県議会

検索

### 佐賀県議会会議録

平成11年以降の会議録を検索できます。

<http://www.db-search.com/saga/index.php/>



### インターネット中継

本会議(委員会)の様子をリアルタイムで視聴できます。(開会中のみ)

<https://www.pref.saga.lg.jp/gikai/kiji0034826/index.html>



### 録画放送

インターネット中継の日から3営業日後(土日祝除く)を目途に公開しています。平成30年4月以降の映像を公開しています。

<http://sy.pref.saga.lg.jp/gikai/stream/usr/>



お読みになった感想やご意見をお寄せください

## 佐賀県議会事務局政務調査課

「さが県議会だより」の次号は、9月1日発行です。

〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番45号  
TEL 0952-25-7306 FAX 0952-25-7279  
E-mail [gikai@pref.saga.lg.jp](mailto:gikai@pref.saga.lg.jp)  
ホームページ <http://www.pref.saga.lg.jp/gikai/>